

雨上がり



鯖の文化干し



目次

顔を上げると君がいた	1
------------------	---

顔を上げると君がいた

どれくらいここにいるのか、そんなことわからないくらい長い時間がたったような気がする。

睡眠から目が覚めたボクは空を見上げた。
どんよりとした黒い雲がたちこめている。
顔になにかが当たる。 雨だ。
降りだした雨に目を瞑り、体を丸めてうずくまる。

喧嘩して出てきてしまったお家に帰りたい。そう思うと涙が出てきた。
帰りたい。

「やっと見つけた！」

顔を上げると君がいた。
大きな瞳に涙をいっぱい溜めて、ボクを抱き上げる。
君の体温はボクが好きなもの。
ごめんね、勝手に外に出て。
ごめんね、君に噛みついて。
この気持ちを伝えたくて一生懸命にボクを抱える腕を舐める。

「さあ、帰ろ」

帰り道、君がさしている傘に当たる雨音が心地よくて、また眠くなってきた。意識を手放す時、君の喜ぶ声が聞こえた。

「見て！ 虹だよ！」

陽の光で輝くそれは、とても綺麗だった。

雨上がり

著 さばの文化干し

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
